

事例 4 個別学習と協働学習を組み合わせた授業

科目「公共」
主として経済に関わる事項

テーマ	世界の貧困を解決するために私たちは何ができるだろうか
単元等	国際経済のグローバル化と国際協力
ねらい	● 世界の貧困や経済格差に関する問題について、諸資料を基に概念的な枠組みを用いて考察、構想するとともに、対話的な活動を通して深めた内容を論拠をもって表現する。
概要	● 世界の貧困や経済格差に関する資料を活用し、ジグソー法の要素を取り入れた課題解決型の学習を行う。個別の学びと協働的な学びを組み合わせることで、多様な視点に着目するとともに、よりよい社会の実現に向けて、主体的に課題を追究したり解決したりしようとする態度を養う。
使用する教具等	1人1台端末、電子黒板、関連資料、ワークシート

● 指導者 ● 生徒

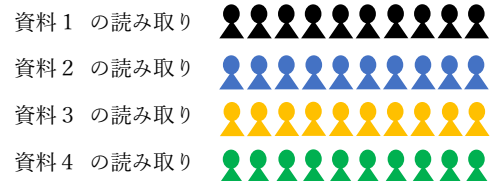
学習の流れ	導入	<ul style="list-style-type: none"> ■ 【問い】・世界の貧困や経済格差はなぜ発生し、どうすれば解決できるか。 ● 次の資料1～4のうち1つを選び、生徒に配布する。 資料1 出生率と国民総所得の相関を示す資料 資料2 識字率と出生率の相関を示す資料 資料3 輸出入品目別割合を示す資料 資料4 ハンガーマップ
	展開	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界で見られる貧困や経済格差の特徴を調べ、解決策・改善策を考察、構想する。 ① 与えられた資料(資料1～4の内いずれか1つ)を各自で読み取り、課題との関連について調べワークシートにまとめる。 ② 同じ資料をもつ者同士で4名程度のグループをつくり、協働学習により課題を追究する。 ③ 異なる資料(資料1～4)をもつ者で4名のグループをつくり、これまで考察、構想した内容等について、グループ内の生徒に説明する。また、グループで課題について再度考察、構想し、意見をまとめて全体で共有する。
	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ④ 自己の考察や構想を振り返るとともに、他者との議論を通じて新たに気付いたことや疑問に思ったこと等をワークシートに記述する。

授業のポイント

「世界の貧困問題」をテーマとして、生徒を主体とした学び合いによる課題解決型学習を行う。
個別での学習と協働的な学習、また、異なる構成員によるグループでの学習を組み合わせ、多面的・多角的に課題を考察したり、他者との合意形成を図ったりすることを通して、自らの学習を調整しようとする力を養う。
①②において資料の読み取りを十分に行うことで、③において根拠を基にした議論ができるように指導する。

学習の進め方

① 与えられた資料を各自で読み取り課題を把握する。



② 同じ資料をもつ者で4名程度のグループをつくり課題を追究する。



③ 異なる資料をもつ者で4名程度のグループをつくり課題を追究する。



④ 各自で学習の振り返りを行い、これまで考察・構想した内容について検討したり、新たな気付きや疑問点等についてまとめたりする。



【参照】

ロイノート・スクール
「シンキングツールを学ぶ」



グループ学習におけるシンキングツールの活用例（ロイノート）